

第2回 松山空港将来ビジョン検討会 議事要旨

〔日時：令和2年5月14日（木）15：30～
〔場所：愛媛県庁第1別館3階第3・5会議室

1 開 会

2 開会あいさつ

3 議 事

(1) 近隣空港における国際線施設の状況について

事務局より、前回検討会での指摘に対する近隣空港における国際線施設の状況について説明。

(主な意見)

- ・特になし。

(2) 国際線旅客ビルの将来配置計画（素案）について

事務局より、国際線旅客ビルの将来配置計画（素案）について説明。

(主な意見)

○施設規模の算定について

<空港関係>

- ・国際線の多くで小型機が使用されているため、問題はないと思われる。
- ・今の定期便は小型機が主流となっているが、チャーター便や多客期等は中型機の運航もありうるので、中型機の駐機場も必要と考える。
- ・小型機の運用が継続されると見込んでいるため、問題ないと思われる。

○将来配置計画（素案）について

<二次交通関係>

- ・東側展開の案1は、現在のバス・タクシープールを移転することになるため、バス等の待機場所等を踏まえると現実的ではないと思われる。また、車及び利用者の動線をみても利便性が低下すると思われる。

<空港関係>

- ・東側展開の案1は、新設される国際線旅客ビルが住宅街に近接するため、施工中の振動・騒音により、住民トラブルのリスクが非常に高くなると危惧される。

<オブザーバー>

- ・C A B 庁舎管制塔の移転の案もあるため、この検討会において、利用者にとって一番良い案を決定し、早めにご提示いただきたい。

○旅客ビルの機能について

<空港関係>

- ・国際線航空会社は、基本的には自社の飛びたい時間に運航するため、複数の駐機場が必要と考える。また、将来の需要拡大を見据えれば、チェックインカウンターやC I Q施設等について、より多くの利用者を迎えられる施設に

する必要がある。

- ・国内線の需要もしっかりと取り込み、かつ既存路線の需要も守っていくため、国内線の施設についても、利便性の高い空港となるよう利用者の声を取り上げていただきたい。

○新型コロナウイルスの影響について

<経済関係>

- ・今回の新型コロナウイルスの影響により、松山空港の利用者が激減し、地元経済が大打撃を受けたことについて、改めて空港の大切さを認識した。
- ・今後、本ビジョンを対外的に示していくにあたっては、年間利用者の将来目標(案)に、今回の新型コロナウイルスの影響を含めておくべきではないか。
- ・国際線旅客ビルについては、今回の新型コロナウイルスの影響を踏まえて、検疫や防疫等について、十分な施設を確保しておくべきと思われる。

4 閉 会